

【平成26年度「群馬の医療と言語・文化を考える会」活動報告】

- 医療通訳制度環境整備：社会連携を図る。
- 医療通訳定期勉強会、公開講座 シンポジウム 開催
- 健康相談会（AMIGOS など）への参加。
- 通訳紹介
- 県医療通訳ボランティア登録者は県からの依頼に応じる。

I 医療通訳制度普及活動

3月～8月

厚生労働省プロジェクト医療通訳養成拠点病院設置構想について
行政・医療機関に情報提供および意見交換を行う。

8月3日（日）会主催シンポジウム開催

「外国語を母語とする人の健康を考える～医療通訳制度の普及を～」

（講演会およびパネルディスカッション）参加者84名

講師：沢田貴志氏（SHARE副代表） 内藤稔氏（東京外国語大学講師）

座長 後藤吾妻保健福祉事務所長

パネラー：原常楽園デイサービス代表 船津前橋市文化国際課課長補佐 斎藤群馬大
学付属病院副看護師長 小池群馬県立がんセンターソーシャルワーカー

長澤正隆AMIGOS事務局長 比嘉スペイン語通訳 廣木中国語通訳

- 群馬県内国際交流協会日本語教室対象にシンポジウムのためのアンケート実施
（外国語を母語とする人の医療機関受診状況について）

英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語（簡体字、繁体字）会員が翻訳版作成。

- 準備として行政、医療関係者、通訳、外国語を母語とする人、支援団体と意見交換。
- 参加者に対しアンケート実施 外国語を母語とする人の支援のための体制整備、医療通訳の必要性について多くの声をいただく。

II 勉強会

5月 群馬在住の外国語を母語とする人 医療通訳に必要なこと 勉強の仕方

通訳技術（リピート練習 身体の名称他 ヒアリング・書き取り・通訳・翻訳）

新聞報道から（胃がん手術後のケア）

英語講演 「日本の医療制度、イギリスの医療制度、患者として日本で感じたこと」

6月 医療通訳とは 医療通訳に必要な知識・技術・倫理 患者の文化・医療文化
通訳技術（リピート練習 身体の名称他 ヒアリング・書き取り・通訳・翻訳）
新聞報道から（胃がん手術後のケア復習 はしか患者急増）
通訳練習クイックレスポンス （受付 問診）
会則説明 登録手続き 会の活動全体についての連絡

7月 8月3日のシンポジウム準備 アンケート集計 分担決定
看護協会公開講座参加「国際看護協力と在日外国人医療支援について」

9月 8月3日のシンポジウム報告
（会計報告 参加者からのアンケート報告 講師先生のパワーポイント復習）
医療通訳報告（医療通訳実践報告）

10月 公開講座「薬物乱用防止について」群馬県出前なんでも講座
医療通訳定例勉強会：会員再登録について 薬物乱用関連用語確認
公開講座 「薬物乱用について」群馬県薬務課 麻薬・監視係 塩野氏
「薬物乱用と依存症」こころの健康センター 今井医長

11月16日 他勉強会への参加
「MSW から見た医療通訳の必要性と役割」当院の現状から
群馬大学医学部附属病院 SW 大川知子氏 他

Ⅲ 北関東医療相談会 AMIGOS 主催 健康相談会参加（医療通訳実践及び見学）

9月29日（日）太田公民館

10月5日（日）済生会宇都宮病院 外国人患者70名受診

11月30日（日）高崎

Ⅳ 他の関係機関勉強会，訓練への参加

9月19日 精神保健福祉士初任者研修会 「生活保護について」

11月26日 自治体国際化協会主催「自治体とNGO/NPOの連携推進セミナー」

「言葉の壁を乗り越える」通訳のボランティア性と専門性

11月29日 DMAT 北関ブロック訓練（於 渋川総合病院）（中国語患者役他）

12月13日 東京外国語大学多文化社会実践研究・全国フォーラム

1 2月14日 渋川広域消防本部主催多数傷病者対応合同訓練事前勉強会
(渋川広域消防本部、渋川市、渋川国際交流協会)

2015年

1月18日・2月1日 群馬県・前橋市主催

災害時通訳ボランティア養成講座・多文化共生防災訓練

1月19日 渋川広域消防本部主催多数傷病者対応合同訓練

1月23日 東京外国人支援ネットワーク研修会

「精神医療相談の現場から考える通訳ボランティアの対応」

2月26・27日 医療通訳基礎研修

V 医療通訳実践準備

- ・勉強会などを通じ、前橋保健所、こころの健康センター、医療ソーシャルワーカー協会、看護師協会・担当者等との意見交換の機会あり。

VI 救急・防災対応訓練参加

- ・渋川市での渋川広域消防本部主催の訓練等に参加。救急の現場・災害の現場での外国語を母語とする人に対する支援の必要性を学び、会としての活動の在り方を検討する。
- ・地震対応多言語防災ビデオの活用などにより、地域の在住外国人と協働の防災体制を考える。

VII NPO 設立準備

シンポジウムの結果も踏まえ関係機関との連携も考え検討する。